

園の実践事例紹介～「科学する心」を育てる～

社会福祉法人浄勝会 出雲崎こども園（新潟県）

地域独自の自然環境に囲まれて暮らすことで、子ども達はどんなことに興味を持ち、様々な人達と関わり合いながら、「科学する心」を育んでいくのでしょうか？

出雲崎こども園の子ども達が、地域と繋がりあいながら、探究を深めていく実践をご紹介します。

● 蚕の飼育から生まれる気づきと地域への拡がり

✦ 蚕がつかない地域の人々 4・5歳児

保育者が偶然譲ってもらった蚕。翌日、子ども達と相談すると、どのような生き物なのか、はっきりしないものの「飼ってみたい」という気持ちがみられたので、飼育することにした。

蚕のエサは、地域の方に声をかけて桑の葉を摘んできた。飼育するうえで蚕の成長に目を向け、変化や気づきを得てイラストで描き残したり、粘土で表現したり、自分達の身体で表現したりしながら、蚕に思いを巡らせていく姿があった。

同時に蚕の飼育に、地域の多くの方が関心を寄せ、昔は養蚕が行われていて、繭にしたものを加工し、布団やどてら、絹製品などを仕立てていたことを知ることでもできた。

蚕が成長し、手の平や指に乗せて観察できるようになると、多くの子どもが実際に触れ合って、一層愛着をもって飼育に臨んでいく姿が見られた。



蚕の様子を観察する



蚕の動きを身体で表現する

✦ 蚕の命をどうしよう？ 4・5歳児

昔はこの地域で蚕が飼われていて、繭の糸が布団や服の材料になったことを知る。「繭の糸」と「洋服の糸」を結びつけて、考えている子どもも見られた。その発想を保育者は受け止め、「繭から糸をとってみる？」と提案しながら、蛹を羽化させるのか？繭のまま蛹の命を止めて、糸を取っていくのか？決めることにした。話し合いでは、蛹から羽化したカイコガに会いたいと思い、自分達の知ったことを試してみたいという思いのなかで気持ちが揺れ動いているようだった。

話し合いの末、羽化させる繭をいくつか残しておきながら、繭のまま命を止めることを選択していった。これまでの飼育の経験から自分達の意思で生き物の命を止める経験はほとんどなかったため、保育者は、子ども達の気持ちに配慮しつつ言葉をかけ、しばらく冷凍し、天候をみて乾燥させる。一方、羽化させることにした繭は約2週間後、成虫となって姿を現した。興味から乾燥した繭を開けると蛹と成虫の違いを観察する姿などが見られた。



繭の糸をとっていく



冷凍させた繭の中の茶色の蛹

子ども達が命を止めた繭だけでは足りず、購入した繭も含めて角真綿や糸をとっていく。布団や服を作れるほどの量にはなかったことで、自分の身に付けている洋服に使われる糸の多さに関心を寄せる。ここまでの経験や気づきから「糸」と「服」の関係にも着目し、靴下の糸をほぐしてみたり服のデザインを一緒に考えたりすることを楽しんでいった。

そんななか、地域にある絹製品を扱っている工場に見学に行けることになった。社長さんとの対話や工場内を熱心に観察していた。繭からとれた糸が実際に洋服になる過程を知った子ども達は、服のデザインから立体に作成することに興味関心を持ち、端切れをつかった人形の服作りや縫物の遊びに派生していった。



工場の見学



縫物遊び

保育者の読み取り

今回の実践での蚕との出会いは偶然の声掛けであったものの、子ども達が蚕という出会ったことのない生き物に対しても興味関心を持ったことは、それまでの園生活における生き物へのかかわりやまなざしが新しい興味関心の芽を出したのだろうと考えている。蚕を飼い始めたことで、地域の沢山の人と出会うことになり、その繭からとれた糸や真綿の活用が、自らの体験を通して知れ、かつて存在していた養蚕の文化に触れることにつながっていった。桑の葉をもらいにいく中で、自分の見知った人が桑の葉を分けてくれる経験をしたり、昔、蚕に関わったりしたことを話してくれたことは、地域の方との共通項を持ち合わせ、今子ども達が自分自身で蚕を育ててくれることに期待をもたらしえていったのだろうと考えられる。

また、実践後半において繭からとれる糸が絹製品や洋服になることを知った子ども達は、生き物を飼育するだけでなく、生き物の命によって、自分達の生活の一端が支えられていることについて、感覚的に感じ取ったようであった。

蚕を飼うという生き物の飼育活動だけで集約せず、表現活動や創造性の育みまで、発展や派生が見られた背景には子ども達がその「地域」で生きていて、子ども達に学びとワクワクとした期待感をもたらしえていたと考えている。

つながるいのち

引き続き新たな蚕をいただくことができた。前年度のつながりから出会った地域の方のもとに、桑の葉をもらいにいき、蚕の飼育がはじまった。前年度飼育した年長児が、蚕の扱いや飼育の仕方を伝える姿もあり、園に地域の方を招いて一緒に蚕を観察したり、繭クラフトや桑の葉のこすりだしなどを楽しんだりする機会を持っている。